

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中部国際空港新旅客ターミナルビル	階数	地下0階地上2F
建設地	愛知県常滑市セントレア一丁目1,2,3	構造	RC造
用途地域	防火指定なし、市街化調整区域・準	平均居住人員	1,264 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、物販店、集会所、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年5月28日
敷地面積	59,583 m ²	作成者	谷 堯洋
建築面積	28,062 m ²	確認日	2018年5月28日
延床面積	43,976 m ²	確認者	佐々木 喜啓



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 94%

③上記②以外の 94%

④上記+ 94%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>3.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.9	
Q1 室内環境														3.3	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.3	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														4.7	
2 界壁遮音性能														5.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														4.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														1.0	
2 温熱環境														3.4	
2.1 室温制御														3.8	
1 室温														2.0	
2 外皮性能														5.0	
3 ゾーン別制御性														5.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														2.6	
3.1 昼光利用														1.8	
1 昼光率														1.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														3.9	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														5.0	
1 CO ₂ の監視														5.0	
2 喫煙の制御														5.0	
Q2 サービス性能														3.1	
1 機能性														2.9	
1.1 機能性・使いやすさ														1.7	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														1.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														5.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理														4.0	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
2 耐用性・信頼性														3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.4	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.6	
1 空調・換気設備														4.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														5.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														4.0	

3 対応性・更新性				3.3	0.29			-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.3	0.31			-	
1 階高のゆとり			3.9m以上	5.0	0.37			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.11	4.0	0.63			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				2.8	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー									3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPlm=0.66	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライト	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化				2.4	0.30			-	2.4
4 効率的運用				3.5	0.20			-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00			-	
4.1 モニタリング			ベンチマーク比較、消費特性の傾向把握・分析により妥当性が確認	4.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル									3.5
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加え、省水型機器を用いている	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.63			-	3.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床材、ボード	4.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能、内装材と設備が容易に取外し可	5.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材種別を1つ使用	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境									3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が94%	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車スペース、管理用駐車施設確保、導入路の位置配	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策がイトラインのチェックリストを過半を満たす、広告物照明なし	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

中部国際空港新旅客ターミナルビル新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 中部国際空港新旅客ターミナル

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 シンプルで良好な室内環境を確保する。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高H=3.9m以上を確保し、壁長さ比率0.11により空間の形状・自由度を考慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁デザインは、周辺の建物とバランスよく調和した計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル資材、節水機器を活用する
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。